

「高校教育指導課通信」では、各学校の工夫した取組等について情報提供します。第25号は広島高等学校です。

令和2年9月24日（木）

広島高等学校 <http://www.hcyuko.hiroshima-c.ed.jp/>

生徒同士をつなぎ、協働的に学ぶ授業づくり

— ICT を効果的に活用した学び合いを通して —

高い志を持ち、ともに学び合う集団

○ ICT (G-Suite) を効果的に活用し協働的に学ぶ集団の育成を図るため、授業や家庭学習において生徒に学習課題に取り組みさせる際に、学校総体で次の2点に留意し取り組んでいます。

(1) 学習環境づくり

生徒が安心して自分の考えをアウトプットすることができる雰囲気を作っています。

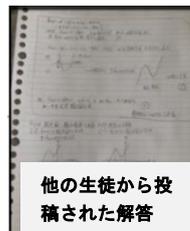
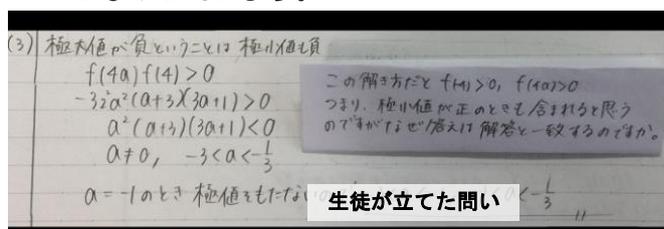
例えば、授業において、生徒が他者と交流し多様な考えにふれる場面を意図的に設定することにより、一人一人の生徒が他者の考えを尊重する態度が養われています。

(2) 問い立ての工夫

生徒が自ら問いを立てることを繰り返すことで、問いの質を高めています。

例えば、生徒が疑問に感じた内容について、生徒自身に自らの学習を振り返らせ、どのような情報が不足しているのかを確認し収集させます。このことにより、次の2つの効果があります。

- ① 生徒が新たな問いを繰り返し立てることにより、現象にとどまらない原因を深掘りした問いへと深化していきます。
- ② 問題解決の場面で生徒が立てた問いの中で、特に本質をついている問いについては、他の生徒へその問いを投げかけ考えさせることで、生徒の学習意欲を刺激し、主体的に学び合う態度の育成につながっています。



担当の先生より

対面の授業では、生徒の学習状況を把握し、生徒の考えを分かりやすく言い換えたり全体へ例示したりすることが重要だと感じています。

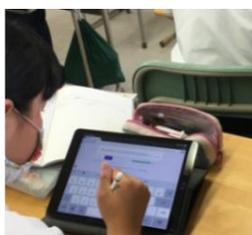


リーディングスクールとしての取組

— 日々の取組の中で培われる学校文化 —

これから求められる授業の模索

○ 日々の授業で、様々な教科・科目でタブレットを効果的に活用しています。例えば、生徒個々の学習状況に対応するために、Google Form を使って生徒の回答を収集し、重点的に解説すべき点を整理するなど、リアルタイムで指導に生かしています。また、オープンクエスチョンで出てきた、様々な意見を他の生徒に即座に共有する時にも活用しています。日々、対面授業と ICT の効果的な活用を研究し、積極的に授業改善を行っています。



特別活動における仕掛け

○ 第1学年のLHRにおいて、クラスごとにレクリエーションを実施しました。クラス内の親睦を図ることが目的ですが、レクリエーションの企画や運営はクラスの評議委員に任されています。新型コロナウイルス感染症に配慮し、タブレット端末を使用するなど実施方法や形態を工夫しました。学習活動以外の場面においてもグローバルリーダーに必要な資質・能力の育成に努めています。

